

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 21 日現在

機関番号：34425

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2016

課題番号：26360084

研究課題名(和文) 首都の中心業務地区における観光空間形成に関する計画学的考察

研究課題名(英文) A Study from the Perspective of Planning on the Formation of Tourism Space in the Central Business District in a Capital City

研究代表者

榎戸 敬介(Keisuke, Enokido)

阪南大学・国際観光学部・教授

研究者番号：60433091

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,500,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、中心業務地区におけるビジネス空間と観光空間の相互補完的な結合が、東京だけでなく世界各地のグローバル都市で進展する現代的な現象であり政策・計画的課題であることを、实地踏査、インタビューおよび文献調査を通して検証した。調査の過程において本研究が学術的貢献として掲げた都市計画学と観光学の融合を試みた結果、「文化消費」あるいは「文化経済」の概念がそのために一つの枠組みを与えるものとの確証を得た。

研究成果の概要(英文)：Relying on such research activities as field trips, interviews and literature review, this study examined an ongoing phenomenon of the development of a mutually complementary relationship between urban spaces for businesses and tourists in the central business district in Tokyo, which is also a policy and planning issue in various global cities in the world. Throughout the research process, this study attempted to meld the studies of urban planning with tourism as its academic contribution and affirmed that the concepts of “cultural consumption” and “cultural economy” would provide a framework for promoting the development of the interdisciplinary study.

研究分野：都市計画

キーワード：都市計画 都市観光 中心業務地区 文化的消費 グローバル都市間競争 首都性 観光インフラストラクチャー 都市再構築

1. 研究開始当初の背景

都市にとっての観光の重要性がより増大しつつある状況において、従来、観光研究者は都市に関心を払わず、都市研究者は観光に関心を払ってこなかったため、都市と観光の関係についての理論的研究がきわめて不十分な状態であった。このような学問的状况の中で、申請者は、都市再生の手段としての観光の展開について、都市計画・都市デザイン・まちづくりの視点から研究を行ってきただが、中心業務地区(CBD)の観光地化というこれまでには見られなかった現象が東京駅周辺地区において現れつつあることに着目し、事前調査を行った結果、都市の中核部におけるこのような変化は、現代の都市と観光の関係を示す重要な研究課題であるとの着想を得た。東京駅 CBD の変化については、都市計画の視点からの研究は存在するが、観光の視点からの研究は申請者が知る限りにおいて存在しておらず、その実態は理論的に把握されていないという状況であった。また、事前調査により、そのような変化は東京だけでなく世界の主要なグローバル都市中心部においても顕在化しつつある政策・計画課題でもあることを確認した。

都市観光研究の対象として、CBD は必ずしも無視されていたわけではない。例えば、大都市の CBD が、近隣の歴史的地区やホテルなどの集客施設やサービス機能と結びついて観光ビジネス地区(Tourism Business District=TBD)という多用途の観光都市空間を形成することが確認されていた。しかし、申請者は、東京駅 CBD は、それ自体が観光目的地としても変化しつつある点でユニークかつ最新の都市変容の事例として位置づけることが可能であると考えた。一方で、都市観光研究では、首都という独特のタイプの都市が、観光の理論的研究の対象として重要であるとの指摘がなされており、首都と観光についての研究の推進が提唱されていた。以上により、申請者は、首都である東京の CBD における観光空間の形成は、観光研究と都市研究の融合を進めるためにまたとないユニークな研究対象であると認識し、その学術的検証が必要であると確信するにいたった。

2. 研究の目的

本研究は、多様な政治的、経済的、文化的な利害や関心が混在する首都の CBD で、新たな観光空間形成とその推進およびコントロールのメカニズムが形成されつつある、という認識のもとに、以下の課題に取り組むものである。

1) 当該 CBD において新たに形成された観光空間の特性について

当該 CBD において、新たに加えられた観光資源・施設・インフラストラクチャーについて調べ、観光空間形成の実態を分析的に把握する。

- ・観光資源・施設・インフラストラクチャーの特性(機能、規模、立地、デザインのテーマ、シンボル性)およびそれらの補完関係の有無。
- ・上記により促進される観光のタイプ。
- ・本地区と周辺地区の空間的つながりの変化。

2) 新たな観光空間の形成に関わるガバナンスについて

当該 CBD での大規模な都市再開発に伴って形成される新たな観光空間の計画主体と内容、管理運営とその仕組み、プロモーションの体制を明らかにする。

- ・行政と民間企業のイニシアティブおよび役割分担。
- ・新たな組織・団体の構築と活動。
- ・行政と民間企業における既存組織内部での観光関連部局の新設や再編。

3) 当該 CBD における観光行動の支援とコントロールについて

当該 CBD に新たに流入してくる観光者の動きをどのように支援し、どのようにコントロールする必要があるのか、また、その手法について明らかにする。

- ・防犯カメラ等の設置による観光者の安全性の確保および治安の維持。
- ・公共空間(道路・歩道・広場など)および民有地の利用規制や警備体制。
- ・災害時の情報提供・誘導手段。

4) 当該 CBD における観光地化の特異性について

東京 CBD のような大都市 CBD の観光地化は世界の中でも特異な例なのか、それとも近年の都市再生としてひとつの傾向であるのか、上記 1)、2)、3) についての調査をもとに、首都性およびグローバル都市性で比較されるロンドンの CBD との比較を行い検証する。

- ・ロンドン CBD における新たな観光空間形成の有無。
- ・上記 2) に対応するガバナンスの有無。
- ・上記 3) に対応する支援およびコントロールの有無。

3. 研究の方法

本研究では、主に、文献調査、フィールドワーク、セミ・ストラクチャード・インタビューによる情報収集に加え、海外での招聘セミナーにおける議論を通し関連情報を収集した。

1) 文献調査

本研究が対象とする都市観光についての

研究は、非都市地域に関する観光研究に比較すると限定的であるが、国内に比べ海外の研究者による研究が比較的進んでいるため英語文献の収集を基本的な情報収集と位置づけた。英語による文献収集は国内では限定されるため、ブリティッシュ・コロンビア大学図書館を拠点に、電子ジャーナル・書籍とともに開架式書庫内の資料を閲覧し、多様な分野にまたがる関連文献の収集を行った。文献探索にあたっては、都市政策・計画・デザインと観光政策・計画を同時に扱う文献は海外でも極めて限定的であるため、「都市間競争」や「持続可能都市」「文化的消費」など事前調査において選び出しておいたキーワードを利用して幅広い文献収集を行った。

2) フィールドワーク

フィールドワークは、本研究において、中心業務地区において新たに形成されつつある観光空間の特性や利用の現状について把握するための中心的な情報収集の手法である。国内では東京に加えて大阪駅周辺地区をフィールドワークの対象とし、海外では都市観光を重視するロンドン、バンクーバーおよびトロントにおいてフィールドワークを実施した。いずれにおいても、都市再開発・再生プロジェクト・文化産業に焦点をあて、そこでの土地利用および公共空間利用における観光の組み込みの現状について情報収集を行った。

フィールドワークでは、写真と動画による情報収集に努めた。特に観光インフラストラクチャーあるいは資源としての公共空間や公的空間の特性を示す視覚情報を収集した。また、空間特性を把握するために、一つ一つの観光空間を構成する要素の集まりをパターンとしてとらえ、国際都市比較の材料として蓄積した。

3) インタビュー

インタビューは、都市再開発プロジェクトに関わる実務家および都市・観光研究者などのキー・インフォーマントを対象に実施した。形式は主にセミ・ストラクチャードを採用し、可能な場合には録音し、文字おこしを行って情報を収集した。また、広範な情報収集を行うために特に海外研究者を対象にスノーボール・サンプリングも実施した。このような手法は、世界各地で進む様々な都市更新プロジェクトの最新の状況について把握するために有効であった。また、プロジェクト当事者の、プロジェクトに関する微妙に異なる見解を知ることとなった。

4) セミナー

海外での招聘セミナーにおける研究発表

を情報収集の手段として活用した。申請者が単独で行うセミナーにおいては、申請者の情報提供に対する参加者（専門家）からの情報提供が多数あり、そこで最新の研究情報および現地や他都市の観光空間の状況についての情報収集を行うことができた。特にロンドンについてはフィールドワークの結果を現地研究者と共有することで、自分の観察の妥当性を確認する情報を得たこともあり、招聘セミナーは非常に有意義な情報収集の場となった。

4. 研究成果

課題 1: 当該CBD において新たに形成された観光空間の特性について

東京駅前 CBD においては、車道、歩道、広場などの公共空間が新たな観光インフラストラクチャーとして再整備されている。このような屋外公共空間だけでなく、オフィスや商業ビル内の準公共空間も観光インフラストラクチャーとして機能している。特に屋外空間においては、これまでにない質の高いランドスケープが施され、またオフィスの1階部分には世界のグローバル都市中心部に共通して見られるようなブランドショップに加えカフェやレストランなどの観光行動の支援機能が連続的に組み込まれ、平日および週末の観光を支え、促進している。

海外都市と比較すると、東京駅 CBD は、観光インフラストラクチャーおよび観光資源が CBD 内においてきめ細かく一体的に提供され、ビジネス空間と観光空間が融合し、補完的に機能していることに特徴づけられる。フィールドワークを行ったロンドンにおいてもビジネス空間と観光空間は近接しながらどちらも強化されているが、両空間の境界は比較的分かりやすいものとなっており、本 CBD の複合性の高さを確認することができた。また、本 CBD においては、歴史的建造物の再評価と復元および復原、新しい文化・芸術的空間、景観再創造、そしてイベントなど、首都の歴史を強調する観光資源が提供されており、グローバルビジネス機能との融合が進んでいることが分かる。

このように首都にしか存在しない歴史、機能、空間などを観光資源化する現象について、近年の都市観光研究は首都性(capitalness)という造語で注目しているが、東京においても首都性が観光空間づくりに重要な影響を及ぼしていることを確認した。これにより、本研究は、東京中心部について、CBD 観光としてだけでなく、首都性を資源とする観光の場としても理解することが可能であることを確認し、国際的な都市観光研究に新たな情報を提供するケースであることを明らかにした。

本 CBD の境界は明確であるため、周辺地区とのつながりの変化は比較的容易に観察できる。その重要な空間として常盤橋公園が注

目される。この公園は地区境界の一部をなすものであり、その象徴である橋が地区の歴史を示す重要な空間として、東北地方太平洋沖地震に受けた被害からの修復が進められている。また修復は高層の大規模再開発プロジェクトと連動して進められておりそのオープンスペースと連動した文化的空間が提供されている。結果的に、どちらかと言うとこれまでオフィス地区の裏側となっていた空間が表となり、新たな観光資源パッケージの形成が進んでいるとの示唆を得た。

課題2：新たな観光空間の形成に関わるガバナンスについて

本 CBD 再開発のガバナンスは、いわゆる官民のパートナーシップに基づくエリアマネジメントの代表例として知られている。その仕組みは革新的な再開発手法として様々な媒体で公表されているが、本研究ではパートナーシップという概念がステークホルダー間で必ずしも共有されているものではないと思われる。なお、パートナーシップ形成のプロセスが進行中という理解も可能だと思われる。最も典型的には、地区内空間の管理運営および費用負担や空間デザインなどについて官民の関係主体が異なる見解を示しており、協力と競争によるガバナンス・メカニズムが介在していることを確認した。

官民の多様なアクターによって組織された再開発は民間主導であるが、再開発事業の運営や広報、イベント企画などソフト面に関わる新組織（NPO）が設置され、CBD 空間を文化的消費の場としてアピールし、運営し続けていくために必要不可欠なメカニズムとなっている。このことは、本 CBD 観光空間の質の維持や魅力向上が、この新組織の継続的かつ安定的な運営に頼っていることを示している。この組織は、テーマパーク運営に決定的な重要性をもつ企画やマーケティング組織と類似しており、管理運営という点からすると本 CBD のテーマパーク化という解釈が成立する可能性も示唆された。通常、テーマパークでは TDL にしる USJ にしる筋書があらかじめ用意され、市場にむかって発信され、それを体験させるための象徴的な空間やイベントが入念に計画されパッケージングされているが、本 CBD においても前述の首都性（capitalness）があたかも筋書の基調となるような形で機能していることを確認した。この首都性は、上述のような既存のテーマパークと比べると商業性や象徴性が弱く控えめなものであるが、脚本化されたテーマの空間的展開との理解が可能であり、したがって空間の管理運営とデザインという二点において本 CBD をテーマパークのパリエーションとして位置付けることも可能であるとの示唆を得た。

課題3：当該 CBD における観光行動の支援とコントロールについて

本 CBD においては、公共空間と民有地内の連続した歩行空間が観光者の移動空間であり観光資源そのものとなっている。防犯と警備はそれぞれの管理主体によって行われており、地区全体として統合的な体制が敷かれているわけではない。オフィス棟への出入りは特に新しい大型ビルでは厳重にコントロールされており、観光者を含めた外部からの訪問者の動きを遮断している。業務空間と観光空間が融合される中で、各企業の業務の現場そのものが明確に分離されることで CBD の観光地化が可能となっている。言い換えればそれが観光地化の条件であるとの示唆を得た。

本 CBD における観光行動支援とコントロールで最も重要な課題は、大規模イベント時に集まる来訪者の流動と滞留である。かつて東京駅復原を祝うプロジェクト・イベントで予想を大幅に超える来訪者のために人流コントロールができなくなりイベント中止となった件があるが、毎年年末に開催されるイルミネーション・イベント期間中の来訪者の公共空間における行動コントロールなどは重要課題である。特に本 CBD の歩行空間の中心軸である丸の内仲通りはイベントの中心であり人流コントロールの重要な空間であるが、平日・休日ともに時間限定で実施されているその歩行空間化（ストリート・カフェ）の時間は、日常的に交通コントロールが行われる場として防犯・警備の経験が蓄積されつつあるものと思われる。

イベント時など観光者・来訪者が集中する時の人流コントロールおよび車両コントロールは本 CBD の観光地としての安全性と信頼性を保つための基本であり、今後も継続的な課題となるものと思われる。特に、公共空間と民有地内の連続的・多層的移動を基本とする本 CBD においては、面的かつ立体的な人流支援とコントロールが課題であるが、今後は警察と土地所有者およびオフィスワーカーや企業などの協働による防犯体制や災害時の対応がより重要な課題になるものとの認識を得た。

課題4：当該 CBD における観光地化の特異性について

本 CBD との比較対象としたロンドンにおいても CBD が同市の観光にとって重要な役割を果たしており、グローバル都市間競争の重要な機能として政策的に認知されていることを確認した。すなわち、ロンドンにおいては、観光との関係で CBD が政策的に明確かつ積極的にその役割について評価されていることを確認し、現代における CBD の再評価あるいは課題化が進行中であることを把握した。フィールドワークを行ったトロントとバンクーバーの CBD においても同様の現象が見られ、CBD と観光の関係強化は本 CBD だけの現象ではないことが分かった。フィールドワークを実施した都市はまだ限定的であるため世界

的な広がりのある都市現象と言えるかはまだ不明であるが、傾向としては広まりつつあるものと推測できる。また、CBD と都市観光の結びつきがグローバル都市間競争に影響を与えるものであるという発想の広がりも示唆された。

ビジネス空間と観光空間に焦点をあてたフィールドワークでは、両者の関係を示す空間モデルとして、隣接型と融合型という二つのモデルの着想を得た。前者はこれまでTBD(Tourist Business District)としても把握されているものであるが、後者は東京 CBD 以外ではまだ把握できていない。このことから、本 CBD は観光との関係でユニークな例であると理解することが可能である。すなわち、二つの空間が隣接して機能するのではなく、一つの空間として機能するというハイブリッドな空間形成が進行中であると考えられる。業務・商業・ホテルなどの複合ビルあるいは複合用途開発(mixed use development)は珍しくないが、本 CBD は、現代の都市観光活動を説明する概念でもある文化的消費あるいは文化経済的活動のための空間が、建物内だけでなく地区レベルで形成されている点が注目される。例えば、ロンドンのポストモダン CBD として知られるキャナリーワーフ地区においては業務と商業は隣接して配置されているが、本 CBD のような両者のきめ細かい融合は見られない。トロントにおいても、ひとまとまりの大規模エンターテイメント地区と CBD の隣接は見られるが、オフィスビル内部および敷地内は、レストラン、カフェ、小規模ショップなどのサービス施設も含めて主にオフィスワーカーのために機能している。本研究でのフィールドワークはまだ限定的であるが、以上のように、本 CBD は、これまでにない業務・観光融合型の空間としてひとつの観光空間モデルとして成立する可能性を確認した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計4件)

榎戸敬介 (2016) オリンピックと都市、そして観光の理解に向けて - スポーツ観光と都市観光における学際的研究とその課題を探る、都市計画 Vol.65, No.1 PP.48-51.

榎戸敬介 (2016) Exploring Postmodern Urban Transformation through the Preparation for the 2020 Tokyo Olympics, ISS Research Series No.59 PP.129-137.

榎戸敬介 (2016) 東京中心業務地区のテーマ化に関する考察 - 都市観光化の理

解に向けた学際的アプローチ、観光学術学会第5回大会要旨集

榎戸敬介 (2016) 文化的消費とグローバル都市の変容 - エンクレイブ化する東京中心業務地区、日本都市計画学会第14回関西支部研究発表会講演概要集

〔学会発表〕(計5件)

榎戸敬介 東京中心業務地区のテーマ化に関する考察 - 都市観光化の理解に向けた学際的アプローチ、(2016.7.10) 観光学術学会第5回大会、場所：立命館大学、京都。

榎戸敬介 文化的消費とグローバル都市の変容 - エンクレイブ化する東京中心業務地区、(2016.7.30) 日本都市計画学会第14回関西支部研究発表会、場所：大阪市立大学文化交流センター・ホール。

榎戸敬介 Exploring Postmodern Urban Transformation and Preparations for the 2020 Tokyo Olympics (2015.5.23), 主催：Japan Studies Association of Canada, 場所：中央大学(市ヶ谷)。

榎戸敬介 From Global Business City to Tourist City: Postmodern Transformation of Tokyo's CBD into a tourism destination (2015.5.1), 主催：Faculty of Environment, University of Dundee, 場所：University of Dundee (Dundee, Scotland, UK)。

榎戸敬介 Reinventing Tokyo's Central Business District: The Emergence and Impact of Urban 'Tourismification' (2014.9.11), 主催：Centre for Japanese Research, Institute of Asian Research, The University of British Columbia, 場所：Vancouver, BC, Canada。

〔その他〕

阪南大学スプリングセミナー「グローバルビジネス都市から観光都市へ：魅力ある観光

地へと変貌する東京丸の内地区」主催：阪南
大学（2015.3.7）、場所：阪南大学(松原市).

6 . 研究組織

(1)研究代表者

榎戸 敬介 (Keisuke, Enokido)
阪南大学・国際観光学部・教授
研究者番号：60433091